

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490500113		
法人名	社会福祉法人 千香会		
事業所名	グループホームぼらん	ユニット名	
所在地	気仙沼市東新城1丁目3番3号		
自己評価作成日	令和 4年 1月 17日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4年 2月 7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同一敷地内に姉妹法人の小規模多機能型居宅介護施設とグループホームが隣接している。普段から行き来しており、交流を深めている。災害時においても協力・連携体制が整っている。当施設では入居者ができることに対して役割を分担していただき、食事の準備や後片付け、洗濯物干しや洗濯物たたみなどを職員と共にを行うことで、アットホームな雰囲気の中で過ごしていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR気仙沼駅から西へ車で3分ほどの所、営業所や住宅が混在する中に「グループホームぼらん」がある。隣合わせに同法人のグループホームがあり、様々な場面での協力体制が出来ている。ホームは設立から6年を経過し、入居者・職員ともに落ち着いた生活を過ごしている。「林檎狩り」などの例年行われている外出行事は、コロナ禍により全て見送りになっている。目標達成計画に掲げた「避難訓練に地域住民の協力を得る」ことについても、取り組むには至らなかった。入居者との生活の中でコミュニケーションを図り、「否定しない」ことや「受け入れる」ことで、一人ひとりを大切にしたいケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームぼらん)「ユニット名」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体ミーティングで唱和している。事務室や玄関、職員トイレに掲示し、常に理念を意識して業務にあたっている。	ホームが理念としている「笑顔・感謝・挨拶」を、ケアの原点としている。笑顔になってもらうことを意識した声掛けや対応、洗濯物干しなど入居者が役割として行っていることへの感謝を伝えるなど、理念を実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	常に近隣の方々への挨拶を行っている。交流についてはコロナ対応のため、実施できていない。	近所の方から「庭に柿がなったから入居者さんと取りに来て」と声をかけてもらった。高校生の見学を受け入れた。地域での行事やボランティアの来訪などは、コロナ禍で実施されなかった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトを受講した職員がおり、要請があればいつでも認知症サポーター養成講座を開催できる用意がある。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隣接している姉妹法人の事業所との開催を含め年6回の予定をしている。しかし現在コロナ対応のため、書面開催のみとなっている。	民生委員と家族代表、住民2名、地域包括職員のメンバーで構成している。令和3年10月に、書面での状況報告を行った。メンバーから「よくやっている」との感想をもらった。	ガイドラインが求める運営推進会議について、2カ月毎の開催に努めていただきたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナの影響により、直接相談に向く機会はなかったが、何かあれば電話やメールを活用し、連絡を取っている。	市から、市内でのコロナウイルス感染の現況や感染者発生の場合の対応及び注意喚起のメールが、本部を通して入ってくる。市開催として「感染予防について」Web研修の案内があった。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアに努めている。毎月の職員全体ミーティングで身体拘束に当たるケアがなかったか確認している。	法人として、介護職員が参加する「身体拘束等適正化委員会」を行っていたが、現在はコロナ禍で中止している。令和3年に2回、指定基準の具体的な行為11項目について、現場でのケアを振り返り、「あり・なし」をチェックし、拘束は行われていないことを確認した。	介護現場における拘束や虐待が推測されることの事例を洗い出してみることや、現場における「グレーゾーン」とは何かなど、ケアの実践に役立つ委員会のあり方を再考願いたい。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の勉強会で年2回は研修に盛り込み、虐待が見過ごされることがないように虐待防止に努めている。	適切なケアをするためには、正しい知識を持つことが必要との考えから「認知症の種類と特徴」について研修をした。内出血など気付いた職員は、「事故報告書」にその身体状況などを記入し提出する仕組みがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	すでに利用者様が「成年後見制度」や「まもりーぶ」を活用しており、実例を通じた学びの機会となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に利用者様やご家族の方に説明を行い、不安や疑問を尋ねて十分な説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に意見箱を設置し、重要事項説明書への記載と玄関に苦情相談窓口を掲示している他、ご家族に接する機会には、ご意見を伺って業務に反映するよう努めている。	事務室の窓を使ってビニール越しで会うことが出来る。毎月、個別に写真付きの便りを送っている。「外出はいつからか」などの質問がある。入居者の自宅での過ごし方を聞き、ホームでのサービスに活かしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体ミーティングでは管理者をはじめ、全職員が意見交換を行っている。	ポータブルトイレの消臭や排泄後の清拭についてなど、ケアに関する意見が活発に出されている。休憩時間の確保について要望があり、検討している。有給休暇の取得について本人の希望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の家庭事情などを踏まえ、勤務時間や内容に制限がある職員に対して話し合いを設け、て勤務していただいている他、意欲のある職員には支援も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格受験料の補助を行っている。コロナの為、法人外の研修には参加できていない。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	姉妹法人施設と連絡を取り、常に相互の情報交換や内部研修・行事等の情報交換を行っている。	隣接する同法人の地域密着型サービスの3事業所は、日頃から交流がありケアについて相談したり、勤務実態に応じて職員を補い合う「ヘルプ」の仕組みがある。病院の連携室に退院後の助言をもらった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が不安を感じないよう声掛けや話しやすい雰囲気づくりに努めている。また、利用相談の段階から要望や心配事を把握し、安心してサービスを受けることができるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様来訪時や連絡時には様子を伝えながら不安に感じていることを伺い、話しやすい雰囲気づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点より聞き取りを行い、本人・家族が求める支援を把握し、適切に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が暮らしの中で可能な活動や好む活動を把握し、一緒に作業や活動に参加していただいている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や連絡時には近況報告を行うとともに、家庭でのこれまでの対応方法なども伺う等、共に本人を支えていく関係を築くよう心がけている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はコロナ対応のため原則禁止としているが、窓越しでの面会と電話を活用して本人との関係維持に努めている。	入居者の受診に家族が付き添っている。全員が同じ訪問理容を利用している。宗教の集会にリモートで参加している。介護プランに馴染みの関係づくりをニーズに上げて、他者と楽しく過ごすことを目標に援助している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	施設生活の中で、性格や相性などを考慮して利用者同士のコミュニケーションや良い関係が維持できるよう配慮しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、いつでも立ち寄っていただけるよう声掛けしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別にゆっくりと話をする機会を設け、暮らし方の希望や、意向の把握に努めている。また、要望を伝えられない方については、本人の立場になって考え対応している。	希望として食べたい物を言う人が多い。顔の洗い方や排泄後の拭き方など、それぞれ本人の拘りに寄り添って対応している。着たい服を自分で選んだり、夏冬の衣類の入れ替えに自宅に行くなど支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族から生活歴や情報を聞き取り、入居後でもできる限り以前と同じ生活ができるよう環境づくりを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活状況を記録し、一人ひとりの過ごし方ができるよう努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の気づきを記録し、その事実を基に課題解決に向けて月1回の全体ミーティングで話し合っけてケアに反映させている。	3ヵ月毎のモニタリングを行っている。トイレが間に合わずに失敗してしまう入居者に、夜間はポータブルトイレを使用するプランに見直した。本人意向の「健康でいたい」に、こまめな衣類調整と口腔内観察を盛り込んだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録・受診記録・排泄表等を活用し、情報を共有している。生活記録は計画通り実践できているかの確認・振り返り・見直しができるような形式になっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の自宅へ職員と一緒に伺い、夏冬の衣類入れ替えを行う等、本人の個別のニーズに柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ対応のためボランティアや地域活動への参加が現在ではできていない。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から受診しているかかりつけ医を継続している。家族が同行する場合も状態変化や様子を適格に伝えられるよう、記録を渡している。	「受診記録」に、医師の指示や注意点を記録し職員間で共有している。入居者に変化があった際には、各かかりつけ医に電話で症状を伝え、受診の判断を仰いだり、看護師から対応の助言をもらっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康状態を観察・記録し、気になることや状態変化がみられた場合はかかりつけ病院に情報提供を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、主治医・看護師・地域連携室と情報共有を行い、状態の把握と、リハビリの状態を確認している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針をお渡しし、要望があればいつでも相談の場を設ける事を伝えている。	文書にて、ホームに於ける看取り介護の実施の定義を定めている。医師の判断や浴槽を跨げないなどの状態を前提に、自己決定と尊厳を守る終末期のあり方について三者会議を行うとしている。退居に際しては、移り先などの相談にのっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、特変時の対応をマニュアルとして整備し、定期的に緊急時の初期対応を勉強会で確認、共有している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ対応のため、地域には現在案内のみ配布している。今後夜間想定総合避難訓練を実施する。	日中を想定で、消火・通報・避難の訓練を行った。火元に近い人を優先して避難することを事前に共有した。「互いに声掛けや指示が必要」や「万が一を考えると」などの反省をした。消火器操作訓練をした。	ガイドラインが求める夜間想定訓練の実施をお願いしたい。ホームは、ハザードマップで浸水地域であることから、浸水時の入居者の保護についても考えていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に勉強会を行う他、全体ミーティングの中で声掛けや言葉を選ぶよう指導と確認を行っている。	指示する言い方ではなく、「していただけますか」など依頼する表現をしている。本人ペースで決めた朝食までの行動を受け入れている。食器拭きや洗濯物干しなど、本人が役割にしていることに感謝を伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の支援において、本人の意思や希望を確認している。自己決定が難しい方については選択をしていただけるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分、趣味に合わせて個人のペースに合わせて過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着たい服や髪型等、選択・判断していただくよう支援している。また、着替えの際、職員と一緒に選んでいただくなど配慮している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が立てた献立を参考にして、調理担当職員が調理している。また、誕生日や行事の際にはリクエストしていただき、食事の準備、片付けを一緒に行っている。	正月に餅のバイキングをしたり、お茶会では4種の茶を用意するなど工夫して楽しんだ。誕生日に海苔巻きや刺身、七夕に素麺と天婦羅など希望に応じている。ラーメンの要望に煮込みラーメンを作り、好評だった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分摂取量を記録し、野菜が嫌いな方や水分が不足気味の方については、個別に野菜ジュースやヤクルト等、個別の好みのものを準備し、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後声掛けを行い、歯磨きを行っている。利用者様によっては必要な支援(口腔ケア)を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、個々の排泄パターンの把握に努め、誘導や声掛けを工夫して、トイレでの排泄ができるよう支援している。	定時で行く人や食前に声掛けする人など、其々の人に合わせてトイレへの誘導を行っている。便が出た際には、コールで知らせてもらい観察を行い健康状態をチェックしている。夜間は、コール対応で支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳を提供したり、おやつとしてヨーグルトを提供している。また、日中に体操を行い、体を動かすようにして便秘を予防している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	本人の意向を確認して入浴していただいている。週2回の入浴の機会を確保している他、失禁等、必要に応じて入浴の対応をしている。また、同性介助を希望する方についても対応できている。	午後に入りたい人や同性介助を望む人など、その人の希望に沿った支援をしている。余計な手出しはせずに、自分で出来ることはしてもらっている。入居者の不満を聞き、席替えをするなどケアに活かしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者それぞれの状態に合わせて休息をとっていただいている。暗くなることに不安を訴える方に照明スタンドを準備するなど工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録に医師からの指示や注意点を記録している。薬が変更になった際は、連絡ノートに記載して全職員で確認・把握ができるような仕組みにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や歌・詩吟・塗り絵等、生活記録や好む活動を把握しながら支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響により、外出(花見・みなと祭り・ドライブ・リンゴ狩り・紅葉狩り)は実施できなかったが、希望により戸外の散歩の希望があった折には職員と散歩を楽しんでいただいている。	年間計画書に外出はあるが、コロナ禍のため全て中止している。皆で植えたガザニアやダイアンサスの花のプランターが玄関前を明るくしている。「個別ニーズ支援」として、必要な筆筒を買いにホームセンターへ行ったり、受診時に自宅に寄るなどしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な金額をお預かりし、ホームの金庫で管理させていただいている。希望者や外出時には自由に使うことができる」ことをお伝えしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方は自由に家族や友人と話す機会を持つことができる。また、希望があれば施設の電話を利用して家族と話することができる。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンと加湿器で空調を管理し、季節の草花を飾ったり、行事の写真や季節の壁飾りをするなど居心地良く過ごせるよう支援している。	ホールでは、入居者の相性などを考慮して定席にしている。テーブルには、ミリオンベルの花を置くなど季節を感じている。節分には、職員のアイデアで作った鬼に豆をぶつけるゲームで盛り上がった。年に2回、エアコンや換気扇、天井などの大掃除をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士が、同じテーブルやソファ一席にて会話を楽しまれている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや机等を持ち込んでいただき、希望者はテレビや冷蔵庫も持ち込んで活用していただいている。また、大切な人の写真や、好きな芸能人のポスターを飾ったりもしている。	日中、入居者はホールで過ごすことが多い。アイスを食べたり、午睡をするなどの過ごし方をする人もいる。折り紙で作った小物を並べたり、自分で作った松ぼっくりのリースを飾るなど、その人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の表示や居室の名札は利用者様の目線の高さに設置し、シルバーカーの利用者が操作しやすいよう配置するなど、施設内を安全で自由に動けるよう工夫している。		